

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成30年8月2日（木）

午後 1時30分 開会

午後 1時51分 閉会

場所： 全員協議会室

〔上程議案の補足説明〕

1 ブロック塀等安全対策改修工事について

榊原康仁建設部長：資料に基づき説明

質疑なし

〔その他〕

1 小中学校へのエアコン設置について

榊原純夫市長：すでにマスコミ等の報道でご承知のとおり、7月17日に豊田市で熱中症により小学校一年生の児童が亡くなりました。今の異常気象を考えると、これは本市でも起こり得ることと判断をしたところでございます。直ちに半田市の教育委員会には熱中症に対する注意喚起と予防に取り組むよう指示をしたところでございます。しかしながら昨今の暑さは尋常ではなく、安心安全はもとより、子供たちの学習環境を考えても、エアコンの設置は不可避と考えるところでございます。つきましては普通教室として普段活用しております約400教室につきまして、早急にエアコンを整備するよう教育委員会に指示をいたしました。設置する教室の順については、今検討中でございますが、まだ、体力のない低学年児童や特別支援学級、そして受験を控える中学校三年生のクラスから設置することを考えております。いずれに致しましても、来年の夏に間に合わせるべく早々に準備を進め、来年度と32年度の2年間で全教室に設置を致したいと考えております。今後必要な予算を早急にはじき出し、議会にお示しをさせていただき予定でございますので、ご承知おきいただきますようお願い申し上げます。なお、全国的にエアコンの設置が加速度的に進むことが予想され、火曜日の愛知県の県・市懇談会の席におきましても、県内各市の市長と協議を致しましたが、エアコンそのものの製造が間に合わない場合等ありますが、いずれにしても設置工事を行う市内の業者さんには市内のものを優先的にやっていただくようお願いをしたいと思っておりますし、機材の確保につきましても最大限の努力をして2年間で設置をいたしたいと思っておりますし、来年度、補正等で対応して今年度予算で対応するものに関しましては、来年の6月いっぱいまでには設置をさせていただいて暑い夏を快適な環境で過ごせるよう努力をしてまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

石川英之議員：今、今年と来年の予算という話だったのですが、要するに来年度の予算というのは、31年の3月に可決がされれば4月から使えるということで考えると、それを来年度中に、今年度と来年度中ではなくて、来年の6月までに設置をするという考え方にはならないのでしょうか。今の話を聞くと

32年の3月いっぱいまでにやると、30年度と31年度は無理だけど、32年度、要するに2年後の夏には間に合いますというように聞こえたのですけど。
榊原純夫市長：まず、補正の対応分につきましては、例えば設計分を9月補正で計上させていただいて、そのあと工事をする分を例えば12月補正、あるいは3月補正で出させていただいて、繰越明許などによってそれを6月までに設置をする、残る半分は31年度予算に計上させていただいて32年の6月までには工事完了させていただきたいという考え方です。なるべく前倒しをして進めたいと思いますが、先ほど申し上げましたように今どうもなかなか機材が手配するのが大変な状況にあるそうでございますが、これにつきましても最大限の努力をして取り組んでまいりたいというふうに思います。

石川英之議員：そうすると、機材さえ間に合えば31年の6月いっぱい、9月でも残暑がまだありますので、夏休みでもやれる可能性はあるという、それだけの予算は当然3月には決定するので、やれる可能性はあるということでしょうか。

榊原純夫市長：32年の6月いっぱいまでにはすべて設置が終わりたというように思っています。

石川英之議員：市長のおっしゃることはわかりました。僕が言いたいのは、要するに31年度の予算には、来年の3月に決まるわけだから、機材さえ間に合えば31年の6月いっぱいとか、7月いっぱい、要するに夏休みが終わってまだ残暑が厳しいなかで、31年の9月でも、もしかしたら可能性としてあるということですねということを確認したいのです。

榊原純夫市長：設計業務等もありますが、とにかく早く付けることが肝要だと思いますので、今おっしゃられたことになるべく近づけられるような努力をさせていただきたいと思っています。

中川健一議員：確認ですが、当初は来年度一年間で設計、調査をしてというお話があったかと思いますが、それはもう前倒ししてやるということでしょうか。

榊原純夫市長：当初予算は今年度幼稚園の設計をして、来年度幼稚園を完了して、そのあと小中学校にということですので、かなり前倒しをさせていただくかたちになります。

中川健一議員：大變的確な判断であると思いますけれども、今後のことですが具体的に補正をやるにしろ、いつ頃にもう少し詳細な提案が出てくるのかというのはどんなスケジュールでしょうか。

榊原純夫市長：まず9月で、設計が優先されますので、設計費を補正で計上させていただく予定です。そのあとそれを受けまして、実際の設置費について別途補正の予算計上をお願いしたいというふうに思っています。

中村宗雄議員：エアコン設置についての整備の計画の方向性が知りたいのですが、今一般的な教室というのは、外を向いている側は一枚のぺらぺらのガラスで、廊下側もきっと木造の建具か何かでそちらもぺらぺらのガラスになっていると思うのです。要するに熱というのは、ガラス面から逃げたり入ったりするわけで、あのような環境にエアコンを付けても、どちらかというと効率、これだけエネルギーということをしごく皆さんが考えているときに、熱の垂れ流しに

なってしまうような気がするのですけども、整備というのはどういう観点でどこまで考えられていることを整備と言われているのでしょうか。

岩橋平武教育部長：一部屋に、今、3か年実施計画で計画していたもの、この事案がある前に計画していたものが、天井に埋め込むかたちのものの、新聞等でも報道された一部屋300万円かかるものでした。私ども今回緊急対応ということで、そこまでの機能のものがきっちり付けられるところまでは、緊急対応だとなかなかいけません。それから学校の更新計画もあるものですから、今回は緊急対応ということで、例えば家庭用のなるべく大きいもの、例えば30畳用を2つ付けたりとかですとか、そういったようなかたちで緊急対応したいと思っています。ただ、どこまでいってもそれは家庭とは違って、窓も大きく南からの光が入ったりだとか、そういったこともありますので、本当にベストなものではないかもしれませんが、まずは緊急対応ということで子どもたちのために部屋に設置したいとそういうふうに考えております。

中村宗雄議員：僕が聞いているのはそういうことを聞いているわけではなくて、機材がなければ緊急対応で家庭用のものでも入れればよいと思うのです。ただ、それを入れようとしたときに、例えば窓を開けながらエアコンをかけているような状況になってしまうと、イニシャルコストのほかにランニングが果てしなくかかると思うのです。逆に入れたところで、冷えないだとかそういうことも考えられる中で、整備の全体をどういう条件の中で考えられているかということをお聞きしたのです。

岩橋平武教育部長：これから設計をもちろんしていくのですが、現実にも今、半田小学校の市民協働の部屋に家庭用のエアコンが付いています。それが非常に能力の小さいもので6畳用のものが2つ付いているような状況です。部屋に入った瞬間は涼しく感じる、ただやはり長く居るとそこではとてもではないけれども耐えられないというような状況があります。そういった現実を積み重ねていく中で、把握していく中できっちり設計の中で何畳用のものをどうやって付けたらよいかというものは考えたいと思います。

中村宗雄議員：もう少し違った角度で言いますと、要するに付けたけど涼しくない程度エアコンを付けて、付けたということにしておきたいのか、設計条件だと思うのです。断熱もせずに付けると、とてつもなく大きなものを付けるか、付けても涼しくならないかの選択になってしまうと思うのです。今から設計していくのはいいのですが、どれぐらいの環境を一つの設計条件としてやっていくか、窓を開けながらエアコンをかけている程度の涼しくないけど暑くはない程度のことをやろうとしているのか、そういうことをやろうとして、今いろいろな家庭用だとかそういう話になっていると思うのです。考え方の話を聞いているだけです。

岩橋平武教育部長：学校環境基準というものがございます。ちょっと正確ではないのですが、27度だったか28度だったか、環境基準というものがありますので、その基準には部屋が保てるようなかたちの温度設定はできるようにしたいと思っています。

中川健一議員：もう一つ別の観点で、もしもエアコンが付くと部屋が多少涼しくなるので、勉強する環境もよくなると思うのです。例えば大阪市だとエアコン

を付けた後に、夏休みを1週間短くしてその分授業をする時間を増やした、そういう事例があるのですが、半田の場合はそういうことは何か考えていることはあるのですか。

加来正晴教育長：まだそこは考えておりません。夏休みは夏休みの意義もありますので、それと直結したような考え方ではありません。今、時間数も足りておりますし、夏休みを短くしてそれだけ詰め込んでやらなくてはいけないという状況ではありません。まずは、子どもたちの生活環境を良くしたいと思います。先ほどの話ですけれども、私も数日前に半田小学校で家庭用のエアコンが壁の方に付いているところに1時間ほどいました。教育部長は耐えられないと言っておりますが、私は随分廊下に比べれば涼しく、湿度はかなり下がっています。隣県の三重県でも市内の全部の小中学校に家庭用エアコンを付けたというところもあり、そこにも話を聞きましたけれども、湿度は下がるし、業務用に比べれば確かにやや鈍いかもしれませんが十分7月、9月のあたりはいい環境で学習ができるというように聞いております。

中川健一議員：僕はぜひやっぱり一度、エアコンを入れることによって、もちろん今よりは教育環境が良くなるので、同じ期間でも勉強のレベルというのは上がると思うのです。だけれども、多額の税金を使ってせっかくエアコンを入れるわけですから、それによって、もしも暑いから夏休みにしているという面もあると思いますので、それを短くできるということであるならば、それで子どもたちに教育をする機会を増やすことができれば、その分教育効果というものが出来、税金を使う意味も一段と増すのではないかと思いますけれども、そのようなことも、ぜひ一度検討すべきではないかと思いますがいかがでしょうか。

加来正晴教育長：夏休みといっても決して全部登校しないわけではありません。多くの学校が夏休みもいろんな学習機会、体験の機会を設けておりまして、読書感想文だとか、ポスターとか、いろんな地域の方に講師になっていただいて教室を、学校を使っております。そういったエアコンのある部屋を今は重点的に使っていますけれども、夏休みだからこそできるいろんな学習機会、体験の機会がありますので、それと合わせて夏休みを短縮する云々は別の問題として考えていきたいと思っております。

久世孝宏議員：これをやることによって、半田市の財政にどのような影響が出てくるかというのは、今現時点で出ているのか、それか9月の補正予算のところまでの設計で詳細が出てくるのかよくわかりませんが、結局、いろいろ聞くと20億、20何億という話を聞きます。起債ができるから起債でいけばという話を内々でさせていただいたりしていたのですが、他にこれによって何か我慢しなければならぬ事業が出てきてしまうかどうかとか、そういったような見通しがあれば教えてほしいと思いますし、9月まで待ってくれということであれば、それはそれでいいのですが、何かあればお願いします。

榊原純夫市長：先ほど教育部長から答弁をさせていただきましたが、本格的なものを作ると1室300万円ということで、400室でございますので、12億円単純にかかりますし、ランニングもかかります。しかしながら財政見通し、税収などを見ていますと、何とか今年度の補正と来年度の新規計上する分は予算が上手に組めるというように思っています。もちろん、今、菅官房長官が記

者会見で公表しましたように、補助の対応をできる可能性もありますので、いただけるものは、それらも活用させていただきたいと思ひますし、あと起債の対応などもしてやっていきますが、十分無理な計上ではないと思ひています。ただ少しランニングコストがかかりますので、それがどのぐらいかかるかも見極めながら、他の事業に影響を及ぼさないような予算計上とさせていただきたいというように考えております。

久世孝宏議員：こんな多額の金額が何とか組めるという話だとあれですけど、また、ちょっと確認をさせていただきたいと思ひます。もう一点は中村議員も中川議員も言っていたことなのですけども、エアコンを付けるのがゴールだとは思ひていません。やはり多額の税金を使うことによって、学校環境がいろいろ変わってくるということに関しては、いろいろこれから有効活用という面ではお願ひをしたいと思ひますけど、それよりもそもそもエアコンを付ける造りになっていない学校の造りというところも、先ほどランニングコストがすごくかかるというのは、結局、断熱効果が無いし、付ける造りになっていないところからくるのですけども、ぜひそういったところも含めて、今後、とりあえず付けるのはいいです、付けた後にどう活用していくか、どう有効にするか、どう費用を抑えていくかということもぜひ考えてくださいという要望をさせていただきたいと思ひます。